

ルル・シフラー 氏 講演より

「DUSYMA 社の玩具」

2014/07/09 ニキティキ展示会 2014

ニキティキお取引先にむけての講演

(講演メモからの文字起こしを再構成しました)

右: DUSYMA スナップで遊ぶシフラー姉妹。中央がルル・シフラー氏



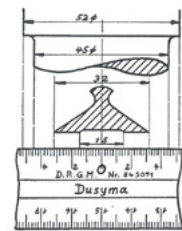
正しい遊びは子どもの基盤作りに役立つ、という前提に立っている。

ヨーロッパの教育者・研究者の言葉から

- フレーベル 「すべての良い事の根本は遊びの中にある」
- W.ランゲ 「フレーベルが引いたガイドラインを更に発展させる義務を近代教育者たちは負っている」
- シラー 「人は遊びの中で完全に人である」
- モンテッソーリ 「環境を整える → 自然・場所を作る。心地よさ・安心感」
「せっかくのごちそうも、きれいに盛りつけて食べる事でその味が生きてくるように、
(フレーベル) 恩物も環境が整わなければ遊べない」

講演の内容

- ① DUSYMA社のモチベーションはなにか
- ② DUSYMA社の新しいおもちゃの誕生
- ③ プラスチックの使用 → アクリルのおもちゃ
- ④ 教育の現場から → なぜDUSYMAか



Dusyma定規

① DUSYMA社のモチベーションはなにか

0才～6才の子どもにとって、遊びがどれほど大切であるかを認識している。

子どもへの愛。 私自身も母も幼稚園の先生の経験を持つ。

道具としてのおもちゃ、環境としての家具を整える事への情熱を持つ。

専門家との意見交換も楽しい。新たなアイデアを得ることも忘れない。

高品質で安全な玩具により、子どもの能力を引き出せる事を確認している。

子ども達が自ら自分の能力に気づく事をバックアップしたい。

この時代、変わらぬものはないが、変わらないでいようと思う。



マンドリュート

創業者である父、クルト・シフラーはベルクアカデミー・フライベルクで、地質学を学んだ。エンジニア時代の初期のころに、「直径(Durchmesser)とシンメトリー(Symmetrie)の寸法を製図する作業を補助するスケール(Massstab)」として特殊定規を開発し、その定規にDusymaという名前をつけた。

父はこのころ、弦楽器リュートの製造者と出会い、その許で演奏をしながらリュートの営業で幼稚園などを回っていた。そんな時、行った先の先生から、なめると色が出たり、とげがさったりする粗悪な玩具しか無かったので、楽器ではなく玩具を作ってほしいと依頼される。フレーベルが大学の先輩であったという縁もあり、フレーベルの考えを基本とする玩具を作ることになる。(注:勤務していたリュートの会社は製品に問題を抱えたまま閉鎖。父は工作機械と製造権を譲り受け、リュートに改良を加え1925年に「マンドリュート」を開発した。)

② 新しいおもちゃの誕生

1925年 にDUSYMA社を立ち上げる。この時「マンドリュート」と同時に、カラードミノの製造をはじめていた。1930年代 にフレーベル恩物、カラードミノ、ミニ動物、平面モザイク、小さな大工さん、家具などを開発、制作。1935年 木製ジョイント積木(DUSYMAジョイント)を制作。特許を申請。現在もDUSYMAのロゴマークに使っている。1940年代 の戦時中、玩具は作れなかった。

(注:詳しい歴史は→DUSYMAのメーカーページへ)

1952年 フレーベル研究の第一人者である、クリスティネ・ウールが、床に置いて遊べる積木にフレーベルの要素を加えて、幾何学的考えを身につけられるようなウール積木を開発。ウール積木は箱におさまることも重要。

この頃、好景気に恵まれ、幼稚園が作られ、木だけでない材質の希望も出るようになる。木は大切で重要な素材だが、1950年代 当時は新しい素材だったプラスチックを取り入れるようになり、木では表現できない組立ての可能性が拡大した。



1930年代のカタログより

③プラスチックの使用

(来場者にDUSYMAスナップをまわす。「この講演に参加して下さい。パーツを次々と足し、最後に一つにまとめます」)

1957年頃 からプラスチック製DUSYMAジョイント、DUSYMAスナップ、リモータ、フロリーナなどを開発。

1960～1975年 子どもの数が増え、景気がよくなる。1968年 工場を新設し、海外との取り引きを開始。

1978年 ルル・シフラー会社に入る。前年までの4年間、幼稚園の先生をしていた。

1982年 父から引き継ぎ経営者となる。1970～80年代 ドイツでは避妊薬が開発され、子どもの数が減り景気が悪くなる。会社ではリストラなどした。政府の教育方針が変わり、玩具も総合的に開発しなければならなくなったので、逆にゆっくり考える事ができた。この頃から海外との仕事にも積極的に取り組む。

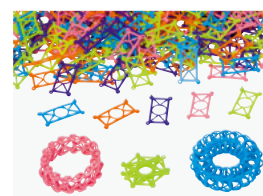
1990年 東西ドイツ統一。転換期、市場拡大、新しいことに取り組みながら伝統を守りたいと考え、旧東ドイツとの仕事として、SINA、Remi、Schiffler Moebelの3社を設立。東西分断前に父クルト・シフラーと関係があった、旧東ドイツの玩具メーカーの工場長だったザイドラー氏とコンタクトを取り、SINA社は設立された。

(注:詳しくは→SINA社のメーカーページへ)

2006年頃からは新素材(アクリル樹脂など)を積極的に取り入れるようになる。

メリット: 木の弱点を克服(製造時間の短縮/精密な加工/鮮やかな色/新しい形の部品/複雑な構造/衛生的)

デメリット: 木の持つ材質ならではの美しさがない(表面の触感がない/重さがない)アクリルを含むこれらのプラスチック製品が転機となり、玩具の方向性も多方面に変わってきた。現代建築でも色、光、影をとりいれている。積木にも色、光、影を取り入れようと、10年前から持っていたウール積木をアクリルで制作するアイデアを実現し、2008年 にLumiブロック、続いてLuxyブロックが誕生した。



(上から) DUSYMAジョイント
DUSYMAスナップ
リモータ
フロリーナ

アクリルを玩具に使うと…

- ・ 光を通して見える美しさがある
- ・ 木製とあわせて遊ぶ事で魅力的な構成が楽しめる。
- ・ 一緒に遊ぶものの素材の違いを指先で感じる事ができる。

木はあたたかい、アクリルは冷たい、軽い、重いなど次々と指先での発見があることが実験でわかった。

「光」はポイント。光あふれる建物が作れる。子どもに木とアクリル両方与えると面白い物を作り出す。ここでもフレーベルが生きてくる。秩序、間隔が学び(創造からの学び)にむすびつく。アクリルの透明ボードに光をあてることを子どもは楽しむ。楽しく遊ぶことがよいおもちゃの前提。感覚を育むということが大切。



(上から) Lumiブロック
Luxyブロック

④教育の現場から → なぜDUSYMAか

2000年～ PISAやIMAという学習達成度調査でドイツの小学生の自然科学と言語の成績がとても低かった。その後教育制度改革の動きがあり、幼稚園から学習偏重に。この影響で、正しい遊びの影が薄らぐ。しかし私たちは、遊びが大事という信念を貫きとおした。フレーベルの考えでは、子どもというものは守られ、教えられるものではなく、太陽の下でのびのびと成長し育っていく、腕のよい庭師が育てた花や植物のようだ。種を蒔き、水をやる。土壌がいかに重要かと考え、仕事をしている。フレーベルとデュシマの考えは同じ。専門知識に裏打ちされた良いおもちゃを与えれば、子どもは自主的に遊ぶ。遊びの多様性の中で、基本法則を学び自分で解明する。基尺から、宇宙の成り立ちに思いを馳せ、おのずと創造力を発揮してくれる。全体と部分の考え方を玩具で体験してゆく。

よいおもちゃとは子どもの力を引き出すおもちゃ

(砂絵遊びセットに自信あり。子どもだけでなく老人のリハビリにも)

- ・ 子どもの発達に適應できる
- ・ 年齢に関わらず遊べる
- ・ いろいろな事に対応して興味を引き出す
- ・ 才能に気づききっかけになる
- ・ 色や形に問題ない
- ・ 安全
- ・ 規格に適合
- ・ 世代をこえて息の長いもの
- ・ 価格にみあうもの



砂絵遊びセット



DUSYMAとはどんな会社？

- ・ 1925年設立以来同じ品質で玩具を提供
- ・ 遊びをトータルで考える
- ・ おもちゃは幅広く遊べる
- ・ ニーズに耳を傾ける
- ・ 専門家に常に意見を乞う
- ・ 正しい発育をサポートする品質に自信をもっている
- ・ 開発の中心にいつも子どもの事を考えている

DUSYMAのヴィジョン

- ・ 子どもが備えている力を豊かにする
- ・ 老人まで世代を超えて遊べる事に貢献する
- ・ コンピュータの影響が多だからこそ、
0〜6才までの玩具での遊びを重要と考える

おわりに

(会場にまわしたDUSYMAスナップをつながながら)
「これから10年後もNIKITIKIや、(その顧客の)みなさんと良好な関係が引き継がれる事を祈っています。」

最後にネルソン・マンデラの言葉より、「子どもがどのように扱われているかによって(属する)社会が見えてくる。子どもというのは、それぞれの社会にとって、一番すばらしい、一番大切な財産で、その子どもたちがどれほど幸せか、どれほど充実した生活をおくっているかによって、その社会の成熟度が判断されるべき。」この言葉をみなさんに。

*EVA樹脂

EVA樹脂の特徴は、ポリエチレンのように塩素を含まないので、焼却してもダイオキシンが発生しない、環境にやさしい素材で、低温特性に優れ、寒い場所などでも硬くならず、弾力性に優れています。また、比重が小さく、塩化ビニルやゴムと比べても非常に軽量で、耐久性に優れ、風雨や紫外線を浴び続けても劣化しにくい特徴を持ち、環境ホルモンを含まない安心素材だから、口に入れても安心・安全です。

DUSYMAの玩具で培われる感覚をベースにして育んでほしいこと

- ・ コミュニケーション能力
- ・ 情緒の発達
- ・ ファンタジー
- ・ 身体の成長
- ・ 寛容な心
- ・ 数学
- ・ 音楽やダンス
- ・ 身の回りへ知識
- ・ 障害のある子どもと遊ぶこと



上：ニキティキ展示会で講演中の ルル・シフラー氏
下：DUSYMA社のシモネ・ヴィンター氏(左)とルル・シフラー氏